

「標準化調査・・・闘いすんで日が暮れて」

平成20年度から都臨技として正式にデータ標準化精度管理調査を開始しております。精度管理調査用試料としては、現在でも管理試料やプール血清を用いることがほとんどですが、添加剤や凍結融解などの影響を受け、一部の項目の機器または測定試薬において問題が発生するケースが起り、残念ながら同じ土俵で一括評価が難しい状況でした。

この試料の問題を解消するため、私自身コレステロールが高値を示し、毎晩晩酌を欠かすことがないため、 γ -GT も異常値であることから、自分一人の新鮮な血清を調査試料として配布すれば、試料の問題を考慮しないでよい調査と評価が可能になるのではないかと以前から考えておりました。今回、理想の実現として都臨技調査において実践に移しました。ここから「闘い」のはじまりです。

生化学試料として、私自身ともう一名の方に協力いただきました。試料作成当日、脂質項目の測定には、食事を摂るといろいろな脂質代謝が起こってくるため好ましくないとの指摘を受け、朝食抜きで採血を行いました。翼状針を私自身の左手正中静脈に刺し、プレイン管に順次血液を入れていきます。駆血帯は、ずっとしていると腕がしびれ変色してきますので、自分の右手で左腕上腕を押さえたり緩めたりしながら採血していきます。昨年(平成20年10月)は、2回のトンボ針を刺すだけでプレイン管70本無事に採血できましたが、今年は、10本取れたところで血液の出が悪くなり、再度刺し直しを行いプレイン管に採っていきましたが、また10本くらい採ると出が悪くなる繰り返しで、5回くらい刺し直しして最後は、血管も痛くなってきて68本であきらめてしまいました。食事を摂っていないことが大きな要因なのか不明ですが、やはり少し無謀なことを行っているのかなと実感させられました。

もう一名の生化学用試料の協力者は、普段から走ることを趣味にしている趣旨を理解していただき朝20kmジョギングしてから採血に臨んでくださいました。何とか3回ほどトンボ針を刺して目的の本数を採ることができました。朝20km走ったあとですから筋肉も酷使しているため酵素項目などかなり異常値を示すものと思って期待しておりましたが、予想に反して日頃運動している方では、身体的への大きな負荷とはならず、ホンの少し高値となるだけの試料となり、次回への課題となってしまいました。

今年は血算の試料についても新しい試みを行いました。昨年は、管理血球による調査でしたが、今年は二名の協力者から「自己血」採血用バックに採血し、生の全血試料として配布しました。血算の試料は、冷蔵保存により血小板の凝集が起こってしまう人がいるとの話を聞いておりましたので、事前に調査して

問題のないことを確認できた方に協力していただきました。こちらは輸血室に協力を仰ぎ、手なれた看護師さんによる採血作業のためスムーズに終了しました。採血の際一名は、採血量を少なめにして保存液の割合を多くして、少し貧血傾向の試料となるように作製しました。

採血後の試料作製と分注および梱包もとても骨の折れる作業でした。午後 4 時頃から宅配業者が集配に来ることが決まっておりましたので、それまでに 153 施設へ発送するために個別梱包作業を多くの駆けつけてくれた標準化委員の協力を得て、必死に行いました。時間に間に合うように容器に分注し、発泡ビニールで試料の容器を包んで箱に入れ、箱に保冷剤を付け、「要冷蔵」と赤いハンコを付いた都臨技の青色封筒に入れ封をして出来上がり。多くの方の連携作業のおかげで何とか宅配業者にすべて渡せたのがちょうど夕方 5 時、何とか時間どおりに、ホントの自己犠牲を払い、また、気持ちよく快諾してくれた協力者の方に助けられ、大変な「闘い」が終わりました。

そして、外は日が暮れて、朝から昼・夕方とばたばた動き回っておりましたので、まったく食事もとっていなかったことに気が付きました。集配時間に間に合わせるために必死の状況でしたのでお腹がへった感じは不思議とまったくありませんでした。後片付けを終え、何人かの標準化委員のメンバーと反省会へ繰りだしました。γ-GT の数値を押し上げる泡のある飲み物を手にし、充実感を覚えながらも、もっと個人負担が少なく、手伝って下さる方の作業を最小限に押さえる手立てがないものかどうか、次回の調査へ想いを巡らせました。今回、理想の形の精度管理調査が実現できたと自負しておりますが、課題もあります。また、今後、検査室の精度保証認証制度の導入も開始されます。この検査室の認証を得るには、都臨技データ標準化精度管理調査への参加が必須条件となりますので、多くの東京都の医療施設に参加していただきたいと願っております。

最後に都臨技会員の皆様へのお願いですが、どこの施設でも同じ“ものさし”で検査データが見られるようにすることは、我々検査技師の責務です。我々検査技師の総力で都臨技会員施設の標準化が達成されたと胸を張って言える日ができるだけ早く実現させましょう。今後とも都臨技データ標準化調査へご意見・ご協力よろしくお願い申し上げます。

都臨技 常務理事・学術部長・データ標準化委員長 荒木 秀夫